



2021.3.20 第128号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



保科 隆 牧師

二〇一一年三月一日午後二時四六分は、東京の西の郊外にある教会におりました。友人の牧師が伝道する教会を久しぶりに訪ねたのです。その日は東京都内に宿泊して次の日は土曜日でしたが東北新幹線で仙台に戻る予定を立てておりました。今は福島教会におられます。今は福島教会におられます。震災の当時は仙台市内の教会におりました。地震に

東日本大震災から一〇年を迎えて

— 詩編一二〇篇から学ぶこと

東北教区・福島教会牧師 保科 隆

よって木造の教会はかなり揺れました。建物が壊れるかもしれないと思つたほどです。その時にすぐに思つたのは東海大地震が起こつたのかもしれないでした。以前、静岡県教会にいたことがあるからです。ところが全く違いました。テレビをつけて見ると今朝出てきたばかりの仙台の町が上空のヘリコプターから映し出されています。

東京都内は地震の揺れがあつてから一日の電車はすべて止まりました。それで困つたのは仙台へ帰る交通手段がなくなつてしまったことです。鉄道はすべて使えませんが仙台空港は津波が浸水

して使用できなくなつていました。一二日の土曜日にレンタカーで仙台まで帰ることを考えましたが車を貸してくれません。そこで心配したのは一三日の主日礼拝が仙台へ戻り守れるかでした。担任教師のつれあいも一緒に東京に出てきていました。二人とも教会を留守にしていたのです。

土曜日に朝から教会の方々に電話をかけまくりました。ほとんどつながりません。一軒だけ不思議につながりました。私が日曜日に仙台まで戻れなかつた場合は教会員の週報ケースにその日の週報が入れてあるので礼拝に来られた方です。いつものように礼拝を守ってほしいと伝えました。

万が一のことを考えて金曜日の朝、教会を出る前に全員の週報ケースに当日の週報を入れてから出かけていたので。あとから分かったことですが礼拝の司式も奏楽も週報に書かれている方が担当され二十数名でいつもの時間に礼拝が守られたそうです。私が説教するところでは、礼拝出席者が一人一人お祈りをしたと聞きました。東京から新潟を回り、山形を経てなんとか仙台へ戻れたのは一四日の月曜日の夜になっていました。

聖書を開いてみます。詩編の一三〇編です。「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください」。「深い淵」とはどのようなところでしようか。詩編六九編三節では「わたしは深い沼にはまり込み、足がかりもありません。大水の深い底にまで沈み、奔流がわたしを押し流します」。

「深い淵」は「深い沼」と同じと考えるならばその場所は大水の底に沈んでしまったことにより何の足掛かりも無いと言える沼のような場所です。それは私どもが経験したことと言えば震災による様々な困窮や不安ではなかったでしょう。あの日、家を失い、仕事を失い、家族を失い、どうしたらよいか途方に暮れた方々が多くおられます。詩編一三〇編の詩人も今、困窮の中におかれて叫んでいます。「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます」。ここで詩人には深い淵のような困窮の中にあつても「主よ」と呼びかける方がおられます。

ボンヘツファーの『聖書研究』の中に「詩編研究」があります。次のような言葉が記されています。「聖書の中には、祈禱だけを含む点において、他の聖書のあらゆる書物とは相違する書物がある。それは詩編である。」さらに続けて、「イエス・キリストは、

人間のあらゆる困窮とあらゆる喜びとあらゆる感謝とあらゆる希望とを、神の前にもたらした。キリストの口においては、人間の言葉は神の言葉となり、キリストの祈りをわれわれがともに祈るとき、再び神の言葉は人間の言葉となる。」また次のような言葉もあります。「われわれの意志が、われわれの全心がキリストの祈りに潜入した時、その時にわれわれは正しく祈る。イエス・キリストにおいてだけわれわれは祈ることができ、キリストと共にわれわれもまた聞かれる」

東日本大震災から一〇年。千年に一度の災害と言われませんでした。地震や津波の被災だけでなく福島原発事故による放射能汚染のことも含めてまさに困窮の中を歩んだ一〇年の日々でした。困窮の中でボンヘツファーから問われるのは我々の心がキリストの祈りに潜入したかどうかです。しかし、それはどのような困窮

の中におられても「主よ」と呼びかけることの出来る方を持っていることよって始まるのです。私にとつてこの一〇年は「主よ」と呼びかける方がおられ、その方がある時は先に立ち、ある時は後ろにおられて押し出してくれた方のように思えるのです。

(ほしな たかし)



「隠退教師を支える運動・100円献金」
「隠退教師を支える運動」推進員になって

東京教区北支区推進員 小宮 周一

東京教区北支区王子教会信徒の小宮周一です。

北支区常任委員として約十年間ほど仕えています。また、三十代（約四十年前）に北支区会計・常任委員として数年間仕えていました。

その間に多くの支区内教会・伝道所の教師の方々と出会いました。そのうちの複数の教師が隠退教師になられたり、召天なさったりしています。



小宮 周一 さん

私が青年時代に王子教会の牧師であられたH牧師とマンガ牧師と言われたH牧師が隠退教師となられています。また、北支区長であられたO牧師、S牧師、F牧師は召天なさいました。

推進員になる前は、「隠退教師を支える運動」について身近に感じていませんでしたが、2年前に東京教区北支区推進員として仕えることになり、この運動の重要性を知りました。

私が北支区内でできることはわずかですが、推進員として「隠退教師を支える運動」を周知していくことを担いたいと思います。

末筆ながらコロナ禍の中で隠退教師の方々やご遺族の方々のご健康が支えられ、恵みが豊かにありますようにお祈りいたします。
(こみや しゅういち／王子教会)

キリスト教会館の三階、教団事務局の奥に、「教団年金局」と「隠退教師を支える運動推進委員会事務局」があり、年金局三名、隠退教師を支える運動推進委員会事務局二名の職員が勤務しています。

一年前の四月七日、緊急事態宣言が発出されて以来、通勤電車の不安を抱えつつ、開局日時の短縮や時差出勤、三密回避のためにシフトを調整して事務所での業務を続けています。ファックスや留守録の転送、インターネット機能を駆使して、在宅業務も工夫しています。この機会に、支える運動事務局は新しい電話を設置して留守録機能を活用、両局ともにeメールアドレスも変更しました。(詳細は4ページをご覧ください。)

西早稲田から

秋には年金局に新たな職員が与えられ、年明けの二度目の緊急事態宣言発出の中、可能な業務は両局で補ない、極力支障のないよう努めています。電話対応やメール、郵便物の遅れなどご迷惑をおかけすることもありますが、世の中が落ち着くまでのもう一息、ご理解いただけたら感謝です。

業務室より

— 年金を受けている方へ — 年金送付のお知らせ

4月の定例給付のご案内をします。

送金内容

①謝恩金受給者

2021年度第1期分給付
(2021年4・5・6月分)

②退職年金受給者

2020年度第4期分給付
(2021年1・2・3月分)

送金日 2021年4月9日(金)

期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2021年7月9日(金)

連絡先・年金振込先の変更は、できる限り早めに、書状、Fax、e-mailの何れかで、年金局までお知らせください。

☆第41総会期第5回年金局理事会が、1月22日(金)書面にて開催されました。事前に配布の議案書に添って20名の理事から提出された議決権行使書により、すべての議案が承認されました。昨年6月に続いての書面理事会でしたが、この一年、各教区でも活動の殆どが停止または大幅な縮小となり、謝恩日献金や年金加入へのアピールがままならない状況が続く中で、理事の方々が祈り、工夫されておられる状況を報告書で共有できました。今回は顔を合わせられるようにと願う声が多く寄せられました。

☆東日本大震災から10年を迎えようとし

ていた矢先の2月13日の福島沖の地震発生でした。被害にあわれたみなさまに心からお見舞い申し上げます。連絡が行き届かないことをお詫びいたします。

☆レントの季節を過ごしています。今年の復活祭は全国の教会で会堂に集って礼拝が守られますように、またみなさまの健康をあわせてお祈り申し上げます。

☆事務所の連絡先の変更は下記をご覧ください。登録の変更をお願いいたします。

(村山めぐみ)

《2021年度現況届》提出のお願い

今月は「現況届」を提出いただく月です。同封のハガキをご確認ください。

①記載事項に変更がある場合は訂正箇所をご記入ください。

②緊急連絡先を必ずご記入ください。

③2021年受給者名簿(9月発行)の掲載や配布についてのご意向をご記入ください。

以上をご確認の上、同封の「個人情報保護シート」を貼付し、ご投函ください。

投函期限 3月31日(水)

※このお知らせを受け取られましたら、速やかに、記入・投函をお願いいたします。

【ご注意！】

このハガキの受け取りをもって、みなさまの現況の確認といたします。ご提出がない場合には、7月9日以降の送金を停止いたします。その後、確認ができ次第送金は再開いたしますので、期日を過ぎた場合も速やかにご郵送ください。

日本基督教団 年金局
「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
年金局 Tel: 03(3202)2080

mail: nenkin@uccj.org

支える運動 Tel: 03(3232)8005

mail: sasae100@uccj.org

Fax(両局兼用): 03(3202)2081